



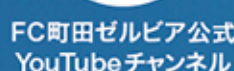
10/19 水 19:00 KICK OFF!!
at 町田GIONスタジアム



ヴァンフォーレ甲府



HIRATO TAIKI



託された想いを胸に。

有終の美を飾る。

平戸太貴選手にとって、2022年はキャリア史上最も印象深いシーズンと断言していいだろう。

ポポヴィッチ体制3年目の今季。J1昇格が目標として掲げられる中、平戸選手は24歳の若さでチームキャプテンに指名されると、シーズン序盤はハイペースで得点やアシストを量産。文字通り、チームを牽引する存在となった。

「今季はいけるんじゃないかと、良いスタートダッシュが切れました。またキャプテンを務めることで、人間としても、サッカー選手としても、レベルアップして成長できたと思います」

そう思える反面、チームはシーズン終盤に調子を落とし、個人としての成績も伸び悩んだ。そのため、「もっとやれたことはあったし、自分の中ではふがいなさもある」と悔しさを募らせる。それでも、個人レベルではJ2通算200試合出場を達成。この節目となるJ2での出場記録は、そのままゼルビアでの実績とイコールだ。前節の栃木戦前には記念のセレモニーも実行した。

「目標とする数字は作らずに、できるだけ長く現役を続けたい」

節目の数字も、単なる通過点に過ぎないが、キャリア史上最も起伏に富んだシーズンはまだ終わっていない。徳島戦のアシストで二桁アシストに乗せた平戸選手には、あと1点に迫った初の二桁ゴール達成という仕事が残されている。

シーズン目標に掲げた10得点10アシストまで、あと一步。ただゼルビアは現在8試合勝利がないため、自身の記録達成以前に、「**チームが勝つために何が出来るか**」に神経を注いでいる。もちろん、“ダブル二桁”の達成が、チームの勝利にも繋がることを平戸選手は知っている。

次に立ち上がる相手は、3日前に天皇杯優勝を決めた甲府。同じカテゴリーのライバルチームがタイトルを獲得したことについて、平戸選手は「タイトルはたまたま獲れるものではない」と敬意を示すが、「そんな力のある相手に対して、自分たちが積み上げてきたものをぶつけられるゲームにしたい」と語気を強めた。

ポポヴィッチ体制最後のホームゲームで有終の美を--。タイトルホルダー撃破のメインキャストは、10番を背負いし我らのキャプテンが務める。

FC MACHIDA ZELVIA Official MATCHDAY PROGRAM DIGITAL

